永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2022年7月

「神のみかたちを回復する」「神の異なったわざ(I)」「第二の局面一後の雨」 「バーベキューソースと野菜の豆腐チーズ焼き」



いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強	「神の異なったわざ (I)」 聖書の教え	4
朝のマナ	神のみかたちを回復する Restoring the Image of God	6
現代の真理	「黙示録 18 章の御使と 1888 年のメッセージ (VI)」 Good Way Series-正道-	38
力を得るための食事	「バーベキューソースと野菜の豆腐チーズ焼き」	42
お話コーナー	レシピ 「太陽の最初の光線 (II)	44

【正丸教会】

〒 368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1 電話: 0494-22-0465

【沖縄集会所】

〒 905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21 電話: 0980-55-8136

アクセス www.4angels.jp

メール sdarm.shomaru@gmail.com

発行日 2022年6月5日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒 368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: iStock on Front page; Sermon View on page 48

効果のある聖書研究

イエスは、幼い時にも、少年時代にも、成人して後も、聖書を学ばれた。…イエスが聖書に深く通じておられたことは、彼が熱心に聖書を学ばれた証拠である。イエスが知識を得られたことには、われわれの場合と異なったところはないのであるから、イエスの霊的また知的な不思議な能力は、教育の一手段として聖書がどんな価値を持っているかを立証している。

天の父なる神は、み言葉をお与えになる際に、子供たちを無視なさらなかった。…聖書のやさしい物語の中には、神の律法の大原則がはっきり示されている。親と教師は、このように子供の理解力に一番適した例話を用いて、ご自分の戒めを「努めてこれをあなたの子らに教え…」と命令しておられることを、彼らの幼い時から実行し始めることができる。…

聖書研究に対する興味を起こし、これを高めることができるかどうかは、礼拝の時間の用い方で大いに左右される。朝夕の礼拝は、一日の中で最も楽しくまたもっとも有益なひと時でなければならない。…

礼拝を正しく行うためには、準備に心を用いなければならない。親は毎日子供たちと一緒に聖書を研究する時間を持つべきである。これを実行するためには、努力と計画とある程度の犠牲が確かに必要であるが、しかしその努力は十分に報いられるであろう。

神の戒めを教える準備として、神は、その戒めを心に蓄えておくように親たちにお命じになっている。「これらの言葉をあなたの心に留め、努めて…これについて語らなければならない」と神は仰せになっている。子供たちに聖書への興味を持たせるためには、われわれ自身が興味を持たなければならない。…

神はアブラハムを召して神のみ言葉の教師とし…た。神はアブラハムが子供たちや一族を、神の律法の原則の中に教え導くに違いないとごらんになったからである。アブラハムの教えに力を与えたのは、彼自身の生活による感化であった。…家族の指導者として、堅固な人物が必要であった。ぐらぐらした弱気なやり方では間に合わなかった。…

アブラハムの感化は、彼の家族以外の者にまで及んだ。天幕の張られたところには、どこにでもその傍らに祭壇が築かれて、いけにえと礼拝が捧げられた。 天幕が取り払われても祭壇が残った。…

聖書を研究するときには、…神が仰せになっていることを知るために聖書を学ぶのでなければならない。聖書についての真の知識は、このみ言葉を与えられた聖霊の助けによってのみ得られる。そしてこの知識を身につけるには、これを生活に実践しなければならない。…われわれは、神のみ言葉の命ずる生活を、神の力によって、実行しなければならない。聖書をこのように支持するときにはじめて、その研究には効果がある。(教育 220-224)

聖書の教え-現代の真理-

第29課 神の異なったわざ(I)

悪人の刑罰

「まことに主なる神はそのしもべである預言者にその隠れた事を示さないでは、何事をもなされない。」(アモス 3:7)。

洪水の前に、ノアは120年の間、洪水前の人々に対して警告しました。ソドムとゴモラは、ロトによって警告され、エジプトはモーセによって、ニネベはヨナによって、バビロンはイザヤとエレミヤによって、世界帝国はダニエルの預言によって、そしてこの世の最後の出来事の警告は、ダニエルとヨハネによって警告されました(第7課ご参照)。

神による最後の裁きに関する警告の数は、それ以前の様々な裁きに関する警告の数よりもはるかに多くあります。旧約聖書における様々な預言者は、神の最後の裁きについて警告を残しており、またキリストおよびその弟子たちの言葉、特に「黙示録」の書にある最後の出来事の証拠があふれています。

黙示録とは、「明らかにされたもの」という意味です。 黙示録には、義人にも悪人にも両者に対して、最後の事件の発展に注意するよう警告と勧告がなされています。わたしたちには皆、神が仰せになることを知る機会があるのであり、だれも知らなかったと言い訳をすることはできません。「こうして、預言の言葉は、わたしたちにいっそう確実なものになった。あなたがたも、夜が明け、明星がのぼって、あなたがたの心の中を照すまで、この預言の言葉を暗やみに輝くともしびとして、それに目をとめているがよい」(ペテロ第二1:19)。

世の終わり、裁き、復活、間もないイエスの再臨

これらはみな間もなく次々と成就する出来事の明確な預言です。イエスの再臨のときには、二種類の人々しかいません。それは、義人と悪人です。もっとも神は、義人に起こる出来事と悪人に起こる出来事に関して、明確にしてこられました。最後の場面に関して数多くの預言はありますが、悪人の最終的なできごとに直結する事柄のみについてまとめていきます。

悪人に関わる三つの重大な出来事は次のとおりです。

- 1.「災害」(黙示録 15, 16 章)。
- 2.「千年期」(黙示録 20:1-6)。(第 14 課参照)

3.「最後の裁き」(黙示録 20 章)。

これらの出来事は、「神の異なったわざ」、すなわち、神の愛と慈悲とは矛盾するように思える行いを成就します。全宇宙を守るために、神は罪と罪人を滅ぼすことにおいて賢明にかつ公正にふるまわれるのです。サタンとその全軍は、真理と義を拒絶した人々と共に、悔い改めるためのあらゆる機会が与えられてきました。そして今や彼らは神に対する公然の反逆の絶頂に到達したのでした。

災い

イエスがとりなしの務めを終えるとき、人間の恩恵期間は終わり、罪はアザゼルのやぎ(サタンの象徴。第14課参照)に移され、そしてイエスは天の聖所の外へ出られます。この時、天の聖所において仲保者がおられないときに、神の裁きが七つの災いをもって始まるのです。

「その後、わたしが見ていると、天にある、あかしの幕屋の聖所が開かれ、その聖所から、七つの災害を携えている七人の御使が、汚れのない、光り輝く 亜麻布を身にまとい、金の帯を胸にしめて、出てきた (黙示録 15:5,6)。

「主はペラジム山で立たれたように立ちあがり、ギベオンの谷で憤られたように憤られて、その行いをなされる。その行いは類のないものである。またそのわざをなされる。そのわざは異なったものである。」(イザヤ 28:21)。

これらの不自然な災いが始まる中、神を蔑んでいた人々は、後悔しつつ次のように認めるようになります。「刈入れの時は過ぎ、夏もはや終った、しかしわれわれはまだ救われない」(エレミヤ 8:20)。もはや手遅れとなったときに、彼らは絶望のうちに神の怒りを和らげるための知識を探し求めますが、全ての機会が軽視され、拒絶されてきたのであり、今となっては遅すぎるのです。

「主なる神は言われる、見よ、わたしがききんをこの国に送る日が来る、それはパンのききんではない、水にかわくのでもない、主の言葉を聞くことのききんである。彼らは海から海へさまよい歩き、主の言葉を求めて、こなたかなたへはせまわる、しかしこれを得ないであろう」(アモス 8:11,12)。

「彼らはその銀をちまたに捨て、その金はあくたのようになる。主の怒りの日には金銀も彼らを救うことはできない。それらは彼らの飢えを満足させることができない、またその腹を満たすことができない。それは彼らの不義のつまずきであったからだ」(エゼキエル 7:19)。

神のみかたちを回復する

Restoring the Image of God



7月 喜ばしい休息の日

創造主の正式な記念日

「こうして天と地と、その万象とが完成した。神は第七日にその作業を終えられた。 すなわち、そのすべての作業を終って第七日に休まれた。」(創世記 2:1,2)

安息日は創造のみ業を記念するために全人類に与えられた。大いなるエホバは、地の基をすえられたときに、全世界を美しく装い、地と海のすばらしいすべてのものを創造されたときに、安息日を制定しそれを聖とされた。明けの星は相共に歌い、神の子たちがみな喜び呼ばわったときに、安息日は神の記念の日として取り分けられた。神はその驚くべきすべてのみわざを終わって休まれた日を聖別し、祝福された。そして、この神に聖別されたこの安息日は、永続する契約として守られるべきであった。この日は各時代にわたって地上歴史の終わりまで、記念として残るのであった。(ルビュー・アンド・ペラルド 1898 年8月30日)

安息日は創造の記念日としてエデンで制定された。それは真の神を天と地の造り主として人に直接指し示している。このようにそれは偶像礼拝、無神論、不信心に対する力強い防壁として立っている。安息日が全体的に守られていたなら、これらの悪のどれ一つとしてわたしたちの世界に足場はなかったはずである。不信心者も偶像礼拝者も存在し得なかった。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ1882年9月14日)

安息日は神とその民との間の印である。この日は休息し、聖なる事柄を熟考するための日として創造主から人に与えられた聖なる日である。神はこの日が各時代を通じて永続する契約として守られるようにと計画された。この日は特別の宝、すなわち注意深く大切にすべき委託物とみなすべきであった。

わたしたちが安息日を守るとき、これは人が愛されたお方のうちに受け入れられるという天が与えた印であることを覚えていよう。すなわち、もし彼が従順であるなら神の都に入り、命の木の実にあずかることができるというしるしである。

わたしたちが七日目に仕事を差し控えるとき、自分が神の側にいることを世に証しており、このお方の戒めに完全に服従して生きようと努めていることを証しているのである。このようにしてわたしたちは六日のうちに世界を造り、七日目に休まれた神を、わたしたちの統治者として認めるのである。(レピュー・アンド・ヘラルド1902年10月28日)

取り分けられた安息日

「神はその第七日を祝福して、これを聖別された。神がこの日に、そのすべての 創造のわざを終って休まれたからである。」(創世記 2:3)

安息日は創造のときに聖別された。それは人のために定められ、その起源は ……「神が造ったすべての物を見られたところ、それは、はなはだ良かった」(創世記 1:31)、そしてご自分の完成された働きの喜びをもって休まれたことに由来 する。このお方は安息日に休まれたので、「神は七日目を祝福して聖とされた」、すなわちその日を聖なる用途のために取り分けられた。このお方はそれを休息の日としてアダムにお与えになった。この日は創造のみわざの記念であり、ひいては神のみ力とその愛の印である。聖書は「主はそのくすしきみわざを記念させられた。」「被造物」は「天地創造このかた神の見えない性質」、すなわち「神の永遠の力と神性」を宣言している(創世記 2:3; 詩篇 111:4; ローマ 1:20)

万物は神の御子によって創造された。「初めに言があった。言は神と共にあった。……すべてのものは、彼によってできた。できたもののうち、一つとして彼によらないものはなかった(ヨハネ1:1-3 英語訳)。そして安息日が創造のみわざの記念である以上、それはキリストの愛と力のしるしである。

安息日はわたしたちの思いを自然界に向けさせ、創造主との交わりに入れる。 小鳥のさえずり、木々のそよぎ、海の快い響きの中に、わたしたちはまだ日の涼 しいころエデンでアダムと語られたお方の声を聞くことができる。そしてわたした ちが自然の中にこのお方の力を見るとき、慰めを見出す。なぜなら万物を創造さ れたみ言葉は、魂に命を語るみ言葉だからである。「『やみの中から光が照りいで よ』と仰せになった」お方は、イエス・「キリストの顔に輝く神の栄光の知識を 明らかにするために、わたしたちの心を照して下さったのである」(コリント第二 4:6)。……

安息日はシナイで与えられた律法の中で具体化されていたが、そのとき初めて 休息の日として知られるようになったのではなかった。イスラエルの民はシナイに 来る前にそのことの知識を持っていた。(レピュー・アント゚・ヘラルト゚ 1910 年 8 月 18 日)

安息日を守ることは、「天と地と海と水の源とを造られた」真の神に対する忠誠のしるしである。(各時代の大争闘下巻 157)

安息日のために準備する

「主の語られたのはこうである、『あすは主の聖安息日で休みである。きょう、焼こうとするものを焼き、煮ようとするものを煮なさい。残ったものはみな朝までたくわえて保存しなさい』と。」(出エジプト16:23)

マナの調理に関してシナイでイスラエル人に課せられた制限を軽々しく話してはならない。主はご自分の安息日の周りに防壁をめぐらされたが、それは安息日がわずかと言えども不注意にあるいは不敬に見なされることがないためである。主が「「主の語られたのはこうである、『あすは主の聖安息日で休みである。きょう、焼こうとするものを焼き、煮ようとするものを煮なさい。残ったものはみな朝までたくわえて保存しなさい』と」仰せになったとき(出エジプト16:23)、このお方は、金曜日は準備の日であり、わたしたちはその日に料理をすべてすべきであることを意味されたのである。安息日は一口の食物であっても作り、調理をする日であってはならない。もし安息日に豆がどうしても必要であれば、金曜日に調理し、オーブンの中で温めておきなさい。それを冷たいままで食べる必要はない。しかしそれがあたかも非常に軽いことであるかのように言い、安息日に関する神の特別なご要求とみなさないことがあってはならない。神のご要求の一つでもあえて無視するよう試みることはだれにも任されていない。……

わたしたちが備えの日に準備する食物は、特に寒い季節には、温めて食卓にのせることができる。旅行中は何日も冷たい昼食を食べるが、だれも不便や害を感じない。わたしたちは週の他の日は毎日味の良い健康的な食べ物を望むが、安息日にはあなたの料理人が家族のために料理をする代わりに休息の日を持つことができるようにしよう。あらゆる準備は金曜日に行いなさい。しかし、安息日を何か特別に食欲を満たすものを食べる日と考えてはならない。あなたの子供たちと家族の一人びとりが簡素で単純な食物を楽しみ、安息日の主が、受ける態度にいるすべての者に与えようと待っておられる祝福を受ける用意をするよう教育しなさい。このお方は、神の創造の偉大な記念日、安息日を聖なる日として守ることにより神への愛を示す一人びとりのためにこれを持っておられる。静かに話し、静かに歩きなさい。あなたの唇から軽々しい、くだらない言葉は一言も出さないようにしなさい。この日は神の日である。(レビュー・アンド・ヘラルド・1897年6月8日)

マナの奇跡

「『六日の間は〔マナ〕を集めなければならない。七日目は安息日であるから、その日には無いであろう』。ところが民のうちには、七日目に出て集めようとした者があったが、獲られなかった。そこで主はモーセに言われた、『あなたがたは、いつまでわたしの戒めと、律法とを守ることを拒むのか。見よ、主はあなたがたに安息日を与えられた。ゆえに六日目には、ふつか分のパンをあなたがたに賜わるのである。おのおのその所にとどまり、七日目にはその所から出てはならない』。こうして民は七日目に休んだ。」(出エジプト16:26-30)

安息日の準備は一週間を通じてなされるべきである一方、金曜日は特別な備えの日となるべきである。……イスラエルの子らのために天が送られたパンを準備することでなすべきことが何かあった。主は、この働きは金曜日、すなわち備えの日にしなければならないと彼らに仰せになった。これは彼らにとってテストであった。神は彼らが安息日を聖なるものとして守るかどうかをご覧になりたかったのである。

エホバの唇からのこの指示はわたしたちの教訓のためである。聖書は完全な 導き手であり、もし理解したいと心に望んで祈りながらそのページを研究するな ら、だれもこの質問で過ちを犯す必要はない。

多くの者は、自分たちが安息日に礼拝のための集会でどのように見えるべきであるかについて教えられる必要がある。彼らは週日に着ていた普通の衣服をまとって、神のご臨在の中に来るべきではない。すべての者は神の家での奉仕に出席するための特別な安息日のスーツを持つべきである。わたしたちは世的な流行に従うべきではない一方で、自分たちの外観に無関心であってはならない。装飾はなくてもこざっぱりとし、手入れをした衣服であるべきである。神の子らは内も外も純潔でなければならない。

安息日の準備は金曜日に完成させなさい。すべての衣服は準備ができており、料理はすべてなし終えていることを確認しなさい。ブーツを磨き、入浴しよう。これをするのは可能である。もしあなたがこうすることを規則とするなら、なすことができる。安息日は衣服の繕い、食べ物の調理、快楽を求めることあるいはそのほかどのような世的な仕事にも時間を当ててはならない。(教会への証6巻354,355)

常に覚えるべき日

「安息日を覚えて、これを聖とせよ」

「六日のあいだ働いてあなたのすべてのわざをせよ。七日目はあなたの神、主の安息であるから、なんのわざをもしてはならない。あなたもあなたのむすこ、娘、しもべ、はしため、家畜、またあなたの門のうちにいる他国の人もそうである。主は六日のうちに、天と地と海と、その中のすべてのものを造って、七日目に休まれたからである。それで主は安息日を祝福して聖とされた。」(出エジプト 20:8-11)

七日目の日、安息日の遵守に関する命令はまだ地の住民すべてに拘束力がある。神はこの日をご自分と忠誠をつくすご自分の民の間の印として取りおかれた。神のご命令は決して変わることなく、永遠と同じく不朽である。主は、ご自分の律法をその性質において不変なものとして宣布することを命じられた使者を持っておられる。この律法に従う者は生ける神の印を帯びる。週の最初の日には神聖さはない。第七日目は創造のみ業の記念として取りおかれた。すべての人は光と導きを求めて天地の創造主なる神を仰ぎ、このお方だけに栄誉を帰すべきである。(ゴスペル・ヘラルド 1905 年 4 月 1 日)

第四条は、あたかも神がそれを忘れてはならない」と仰せになったかのように、「覚えなさい」と始まっている唯一の命令である。このお方は創造の記念日として安息日を人にお与えになった。人はその命令に従うべきであり、彼がこの記念日を守るとき、思いは天と地を創造された生ける神に向けられる。もし人が安息日を聖なる日として守ることを常に覚えていたなら、わたしたちの世界に無心論者や偶像礼拝者はいなかった。しかしサタンは思いから神を締め出すために努力し、これを成し遂げるために自分の計画を実行してきた。そして人の記憶から神を消し去ることによって、できることなら自分を神の立場におき、自分自身を神にまさって高めようとしている。……

わたしたちは今第七日目すなわち神がわたしたちに守るようにと仰せになった まさにその日を守っている。(レピュー・アンド・ヘラルド 1888 年 12 月 18 日)

どれほど忙しいかに関わらず・・・

「あなたは六日のあいだ働き、七日目には休まなければならない。耕し時にも、 刈入れ時にも休まなければならない。」(出エジプト34:21)

人がその多くの気苦労や困惑の中で律法の要求をすべて満たすことに言い訳をするよう誘惑されたり、世的な事業の圧迫により律法の聖なる重要性を忘れたりすることをご存じの上で「覚えよ」と、神は仰せになった。それは、週の最初の日でもなければ、他のどの一般的な日でもなく、神が祝福し聖なることに用いるために取りおかれた第七日目である。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ1897年7月29日)

イスラエルの子らは荒野で幕屋を建てており、急ぐ必要があったが、彼らに「あなたがたは必ずわたしの安息日を守らなければならない」とのみ言葉が与えられた(出エジプト31:13)。幕屋の建設は迅速に進めなければならなかったが、安息日は働く日として用いてはならなかった。主の家における働きでさえ、主の休息の日の聖なる行事に道を譲らなければならない。(ウォッチマン1917年1月8日)

第七日目は神の選ばれた日である。このお方はこのことを祭司や統治者に改造するよう任せてはおられない。それはあまりにも重要なことなので人間の判断に任せることはできない。神は、人々が自分自身の都合を考慮し、自分の意向にもっとも合う日、神の権威を帯びていない日を選ぼうとすることを知っておられたので、第七日目が主の安息日であることをはっきりと言明されたのである。

神の世界にいる者はだれでも神の統治の律法のもとに居る。神は安息日を十 戒の真ん中に置き、それを従順の基準とされた。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ1898 年3月31日)

安息日が……覚えられるとき、世俗のことが霊的なことを侵害することは許されない。六日間の働く日に属する義務を、安息日のために残してはならない。主が休まれ気分を爽やかにされた日に、わたしたちがこのお方の奉仕に携わるのにあまりに疲れるほど、週日にわたしたちのエネルギーを使い果たしてはならない。(教会への証6巻354)

日没の前に宗教に関係のない働きはみな中断し、世俗の読み物はすべて眼にふれない場所に置く。両親方、子供たちにあなたの働きとその目的を説明し、彼らにも戒めに従って安息日を守るためにあなたと一緒に準備させなさい。(同上 355,356)

神の聖なる時を聖別する

「主はこう言われる、命が惜しいならば気をつけるがよい。安息日に荷をたずさえ、またはそれを持ってエルサレムの門にはいってはならない。また安息日にあなたがたの家から荷を運び出してはならない。なんのわざをもしてはならない。わたしがあなたがたの先祖に命じたように安息日を聖別して守りなさい。」(エレミヤ17:21,22)

安息日の要求が提示されるとき、わたしたちが七日間の一日を守ってさえいれば、どの日を安息日として守ろうと何の違いがあるかと尋ねる者が多くいる。わたしたちは答える、わたしたちが神のみ言葉に従うのか、あるいは無視するのか、これにまさる違いはないと。神は安息日を創造の偉大なみ業の記念日として、わたしたちにお与えになった。……

サタンは神とこのお方の創造の力の知識を人々の熟慮と記憶から消し去ってしまおうと決心している。しかし第四条の戒めが守られている間は彼の目的を達することはできない。なぜなら安息日は人々の思いを創造主に向けるからである。(サインズ・オブ・ザ・ゲムス、1893 年 6 月 12 日)

神のあわれみは病人と苦しむ者が世話を受けるべきであると命じている。彼らの苦痛をとりのぞくために要する労働は、必要な働きであり安息日を汚すのではない。しかしすべての不必要な働きは避けるべきである。多くの者は備えの日に果たしておくべきささいな事柄を安息日の始まりまで不注意に放っておく。これはすべきではない。聖なる時間の開始まで怠っていたどんな働きも安息日が過ぎるまで果たさないで残しておくべきである。

言葉と思いを守らねばならない。安息日に仕事上の事柄を話し合い、計画をする者は実際に業務の処理に携わっているものと、神に見なされる。安息日を聖なるものとして守るために、わたしたちは自分の思いが世的な性質の事柄にこだわることさえ許すべきではない。(ヒストリカル・スケッチ 217,218)

わたしの思いと言葉を見張る

「あなたがた、貧しい者を踏みつけ、また国の乏しい者を滅ぼす者よ、これを聞け。 あなたがたは言う、『新月はいつ過ぎ去るだろう、そうしたら、われわれは穀物を 売ろう。安息日はいつ過ぎ去るだろう、そうしたら、われわれは麦を売り出そう。』」(ア モス 8:4,5)

あなたは安息日を守ることにおいて、注意すべきほどに注意しているであろうか。あなたにはその日に自分の働きや娯楽をしないでおくこと以上になすべきことがある。もしあなたがその日に、安息日が過ぎたら何をしようかと計画を立てたり、あるいは自分の仕事や娯楽や衣服のことを話すなら、あなたは安息日を汚しているのである。……

あなたが神のうちにあるあなたの希望、イエスとこのお方のまもなく来られること、新地の麗しさを話しているとき、あなたは自分自身の言葉を話しているのではない。あなたはこれらのことを安息日に自由に話すことができる。六日の間あなたは仕事上のことを話すことができ、必要な計画を立てることができる。しかし安息日は聖なる時であり、その日にはすべての世的な考えは思いから捨てなければならない。そのとき神の祝福があなたにとどまり、このお方の御霊のかんばしい慰めを持つようになり、あなたもまた、恵みの御座に近づく時に確信をもつようになる。(2-ス・インストラクター 1853 年 2 月 1 日)

神の聖なる休日を守っていると公言するわたしたちの間に安息日の改革が必要である。ある人々は安息日に自分たちの仕事上の事柄を相談し、計画する。そして神はこれを彼らが実際の業務処理に携わったのと同じ光のうちにご覧になる。また第七日目が安息日であるという証書の証拠によく通じている他の者が、神の聖なる日を重んじない人々と提携する。安息日遵守者は、自分の金銭を払って雇っている人々が安息日に働くことを許すことはできない。もし利益のために、自分が利益に関与している事業が、不信心の共同経営者によって安息日にも行われることを許すなら、彼はその不信心者と同じく有罪である。そして彼が関係を解消することによってどれほど多くの損失をこうむろうとも、そうすることが彼の義務である。人々は自分たちが神に従う余裕はないと考えるかもしれないが、彼らは神に不服従である余裕はないのである。安息日の遵守に不注意な者は多くの損失に苦しむ。(レピュー・アンド・ヘラルド1884年3月18日)

クリスチャンの安息日

「人の子は安息日の主である」(マタイ 12:8)

多くの者が、神の律法は独占的にユダヤ人に与えられた、また週の第七日目はユダヤ人の安息日である一方で週の初めの日はクリスチャンの安息日である、と強く主張することにより、第四条の戒めの要求を逃れようと努める。この区別は聖書の中で認められていない。旧約聖書と新約聖書、神の律法とキリストの福音、ユダヤ制度の要求とクリスチャン制度の要求の間に存在するとしばしば主張されるような対照性はない。昔の制度で救われたどの魂も、今日わたしたちがキリストによって救われたのである。父祖と預言者たちはクリスチャンであった。福音の約束は初めの夫婦が罪を犯したことにより、自分自身を神から引き離したときに、エデンで彼らに与えられた。福音はアブラハムに説かれた。ヘブル人はみなキリストである霊の岩から飲んだ。諸世界が造られたのはキリストによってであった。律法はキリストによってシナイ山で宣言された。それゆえに満ちみちた意味においてキリストはご自身が宣言なさるように「安息日の主」であられる。このお方はその日を、み使いたちと人々の礼拝を受けるための日としてご自身のために聖とされた。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ1882年9月14日)

神はご自分の律法をお与えになった。そして、十誠の第四条にこのお方の安息日、すなわち、わたしたちが天地創造の記念日として守るために世的な事業から離れるまさにその日がある。そして天地が存在するかぎり、この律法は地上に生きている者に対して拘束力がある。モーセが神の規則と教訓に関してイスラエルの子らに与えた指示は、モーセではなく、天におられる神に由来している。キリストは昼は雲の柱の中におられ、夜は火の柱の中におられたことが教えられている。人々は暗闇に包まれている。そして、彼らが新約聖書におけるキリストを旧約聖書におけるキリストに敵対して武装配置させるとき、確かに知恵は彼らから去っているのである。古代のイスラエル人は、わたしたちが今日キリストによって救われるのとまさしく同じようにキリストによって救われたのであった。(ルヴェー・アンド・ペラルド 1890 年7月15日)

憐れみをもつことは律法にかなっている

「すると、そのとき、片手のなえた人がいた。人々はイエスを訴えようと思って、『安息日に人をいやしても、さしつかえないか』と尋ねた。イエスは彼らに言われた、『あなたがたのうちに、一匹の羊を持っている人があるとして、もしそれが安息日に穴に落ちこんだなら、手をかけて引き上げてやらないだろうか。人は羊よりも、はるかにすぐれているではないか。だから、安息日に良いことをするのは、正しいことである』。そしてイエスはその人に、『手を伸ばしなさい』と言われた。そこで手を伸ばすと、ほかの手のように良くなった。」(マタイ12:10-13)

イエスがわたしたちの世界に来られたとき、世から霊的な光が輝きでなければならなかった。ああ、天よ、聞け!ああ、地よ、驚け!約束された教師はまさしく神のひとり子であった。神はキリストのうちに表され、このお方は真理の宝を明瞭にされた。ご自身を安息日の主と宣言しつつ、第四条の安息日の上に山積みにされていたがらくたを取り払われた。世界と人を造られたお方は安息日もまた造り、清く守るようにとそれを人にお与えになった。(スパルデイング・メイガン・コレクション 59)

イエスは安息日に関するユダヤ人の誤った教えを正し、その日における憐れみの行為もまた律法にかなっていることを弟子たちに印象づけようと望まれた。片手のなえた人を癒すことにおいてこのお方はユダヤ人の習慣を破り、神がそれを世にお与えになったとおりに際立たせられた。この行為によって主は安息日を重荷としていた無意味な制限を一掃し、安息日を高められた。イエスの憐れみの行為はその日に誉れを帰したが、その一方このお方のことをつぶやいた人々は自分たちの役に立たない多くの作法と儀式によって自らが安息日を汚していた。

今日神の御子が安息日を破り、同じことをするご自分の弟子を正当化されたと教える牧師がいる。彼らは、キリストが安息日を廃されたと考えるため、表向きは別の目的であるものの、あらさがしのユダヤ人と同じ立場を取っている。(預言の霊 2 巻 199)

神は、人間に、働くために六日間をお与えになり、彼ら自身の働きがその六日の働き日になされるように要求される。病人や苦しんでいる者はいつでも世話しなければならないので、必要とあわれみの行為は安息日にもゆるされるが、不必要な働きは厳格にこれを避けなければならない。(人類のあけぼの上巻 358)

イエスが教えられたように教える

「安息日に……、イエスは会堂にはいって教えられた。」マルコ (1:21)

神はキリストのうちに表された。このお方はご自身を安息日の主であると宣言しつつ、真理の宝を明らかにし、第四条の安息日の上に積み重なっていたがらくたを取り除かれた。世界と人を造られたお方は安息日もまた造り、清く守るようにとそれを人にお与えになった。(クリスチャン教育者 1897 年 8 月 1 日)

真理を聞いたことのない幾千の人々が命のパンに飢えている。彼らは天からの光を欲している。彼らに真理が愛のうちに提示されるなら、聖霊がそれを受け入れるようにと導きつつ、彼らの心を動かすであろうに。…… (レピュー・アンド・ヘラル ド 1904 年 11 月 3 日)

賢い教師すなわち御言の真理を教えるのにふさわしい男女がわたしたちの 町々に必要である。これらの人々に、真理をことごとくその聖なる尊厳のうちに、 また聖化された単純さをもって提示させなさい。(伝道 71)

わたしたちは今、戸外で集会を行っている。……厚板が座席のために半円に並べられ、ある人々は草の上に敷いた敷物に座り、他の人々は囲いのすぐ外にある馬車の中にいる。戸外での集会をする以外にこの人々に接する他の方法はない。何人かは深い関心を示しているように見える。二、三人が決心をしつつあり、実りつつある畑はみな収穫の備えができている。わたしたちが彼らのいるところで人々に会うために自分たちの内輪から外に出て行くために断固とした努力をしないかぎり、多くの魂を救い損なう。

茂みの中にある小さな荒けずりの教会に入っていく機会はほんのわずかもない。わたしたちはこの方法で人々に語る機会をみな拒まれてきた。しかし主の巨大な宮、すなわち戸外では一諸天をわたしたちの丸天井とし、地面をわたしたちの床とすると一わたしたちは別のやり方では聞こうとしない聴衆を得ることができる。わたしたちはこれらの場所で真理の旗を掲げることを真剣に考える。……戸外の人里はなれた場所で成されるべき大いなる働きがあることをわたしたちは見る。(伝道 426,427)

説教のできる牧師だけでなく真理の教え方を理解している男女も同様に必要である。……送り出されなくても……出ていく重荷を感じる男女が必要である。(ゴスペル・ヘラルド 1899 年8月1日)

神の驚くべきみわざを熟考する

「安息日になったので、〔イエスは〕会堂で教えはじめられた。それを聞いた多くの人々は、驚いて言った、『この人は、これらのことをどこで習ってきたのか。また、この人の授かった知恵はどうだろう。このような力あるわざがその手で行われているのは、どうしてか』。」(マルコ 6:2)

安息日を清く守るために自分を壁の中に閉じ込め、自然の美しい光景や自然の活気づける自由な空気を締め出す必要はない。わたしたちは、自分の思いを主が聖別されたこのお方の安息日から引き離すような重荷や仕事上の処理を決して許してはならない。世的な性格の事柄に自分の思いがとどまるのを許すべきではない。しかし安息日のほとんどすべての時間を壁の中に閉じこもって、長い説教と格式ばった祈りを聞いているのでは、気分がさわやかになることも活気づけられることも高められることもない。主の安息日をこのように祝うなら、それは誤用である。それが制定された目的を果たしていない。安息日は、神のいつくしみ深さと栄光を熟考するために、人の思いを世俗の労から呼びだすことによって、人の祝福となるよう、人のためにつくられた。神の民はこのお方のことを語るために、そのみ言葉の中に含まれている真理に関して思いや考えを交換し、ふさわしい祈りに一定の時間を捧げるために集まる必要がある。しかしこれらの時間は安息日であっても飽き飽きするほど長く、関心を持たせないものであってはならない。

一日のある一定の時間、すべての者は戸外にいる機会を持つべきである。子供たちが、遊ぶためではなく、両親と一緒に一定の時間を戸外で過ごすこと以上に、より正しい神の知識を受け、その思いによりよく印象づけられる方法が他にあるだろうか。彼らの若い思いが自然の美しい景色の中で神と交わり、彼らの注意がこのお方の創造のみ業の中にある人へのこのお方の愛のしるしに向けられて、彼らが引きつけられ興味がわくようにしよう。彼らが神のご品性を何事にも厳しく厳格であると結び付けて考える危険はないであろう。かえって、このお方が人の幸福のために創造された美しいものを彼らが見るとき、このお方が優しく愛に満ちた御父と考えるよう導かれる。(教会への証2巻583,584)

全人類のための祝福

「安息日は人のためにあるもので、人が安息日のためにあるのではない。」(マルコ 2:27)

安息日は単にイスラエル人のためばかりではなく、世界のためであった。それは十誠の他の規則のように、不滅の義務としてエデンで人に知らされていた。第四条がその一部を構成する律法について、キリストは「天地が滅び行くまでは、律法の一点、一画もすたることはなく」と宣言される(マタイ 5:18)。(レピュー・アン ド・ヘラルド 1910 年 8 月 18 日)

安息日は憂鬱な日、不安で落ちつかない日ではない。両親は子供たちを戸外、 木立の中、花園に連れ出し、主がご自分の愛のあらわれとしてこれらの美しい花々 を彼らに与えてくださったことを教えなさい。……

思いが自然の書の教訓と六日間で世界を造り七日目に休まれた自然の神に向けられるようにしなさい。……安息日の要求を軽視してはならない。そして、安息日に食卓につくとき、キリストに養われることを望む者、すなわち神の豊かな祝福を受けたいと思う者は、その日に非常に単純な食物にあずかるのである。

思想は、わたしたちの飲食物や身にまとうものでいっぱいになるよう教育されるべきではない。わたしたちは安息日の準備をする必要がある。その日に着る衣服は整えておくべきである。(同上 1897 年 6 月 8 日)

子供たちが小さいとき、わたしたちは養子の子供たちがいる大家族であった。わたしたちは日没の前に自分たちの働きを終えるのであった。子供たちは安息日を喜びの日として迎えたものだ。彼らは「さあ、お父さんとお母さんが、わたしたちのために時間を取って下さる」と言うのであった。わたしたちは彼らを散歩に連れ出し、聖書と彼らに読んで聞かせる宗教上の教えを何か持って出て、彼らに聖句を説明した。わたしたちは、彼らが神の御言の真理を知るようにと祈り続けていた。わたしたちは安息日だからといって、その朝ベッドにいつまでも横になっているようなことはなかった。わたしたちは急いだり心配したりしないで、集会礼拝にいくことができるように、前日にすべての用意をしていた。わたしたちは道草をしながら、自分のために楽しい時間を取ろうとはしなかった。わたしたちは子供たちが神の聖別された休日の特権と祝福をすべて得ることを願った。(原稿・リース4巻104)

キリストの模範に従う

「イエスはガリラヤの町カペナウムに下って行かれた。そして安息日になると、人々をお教えになったが、その言葉に権威があったので、彼らはその教に驚いた。」(ルカ 4:31,32)

[キリストは] 天の楽しい宮廷にとどまって、世界が滅びるままにはなさらなかった。わたしたちの家庭伝道はどこにあるだろうか。主がこの働きをすることのできる人々の心に関心を起こさせてくださり、暗くなっている場所に光が差し込むことができるようにと願う。安息日ごとに真理のはっきりした光の下に座ることで満足し、この光を広めるために何もしない者は自分自身がその光を失う。もしその光を保ちたいなら、それをたえず与え続けなければならない。イエスは村々をおろそかになさらなかった。(レピュー・アンド・ヘラルド1891年2月3日)

安息日の朝、祈りと総会集会は非常に興味深かった。午前中わたしの夫は信仰の主題を存分に話した。それは、ルカ12章であった。

午後わたしは実を結ばないいちじくの木について人々に話しをした。……

その言葉は心に届いたように見えた。そこでわたしは一度も自分を神の民と考えたことのなかった人々、背教者、自分は新しい回心をしなければならないと感じた人々に前に出てくるようにと勧めた。75人が呼びかけに応じた。わたしの夫は人々に率直に力強く話し、特に前に出てきた人々に神のみ約束に信仰を持つようにと話しかけた。彼は信仰の単純さを強調した。自分の思いを安心させるために話すことを望むすべての人に機会が与えられた。告白の多くの証がなされ、涙が流された。この日は彼らが守った初めての安息日であると多くの者が述べた。(サインズ・オブ・ザ・外ムズ 1876 年 10 月 5 日)

初めわたしは公に話す働きをおそるおそる始めた。もしわたしに確信があるとすれば、それは聖霊によって与えられたものであった。もしわたしが自由に力をもって語ったとすれば、それは神からわたしに与えられたものであった。わたしたちの集会はたいていこのように二人が参加して運営された。わたしの夫は教理的な説教をし、わたしが続いて適当な長さで、会衆の気持ちを溶かして入っていくような勧めをした。このように、夫が種をまき、わたしが真理のために水を与え、そして神が増し加えて下さったのである。(教会への証 1 巻 75)

憐れみ深い医事伝道

「するとそこに、水腫をわずらっている人が、〔イエスの〕みまえにいた。イエスは律法学者やパリサイ人たちにむかって言われた、『安息日に人をいやすのは、正しいことかどうか』。彼らは黙っていた。そこでイエスはその人に手を置いていやしてやり、そしてお帰しになった。それから彼らに言われた、『あなたがたのうちで、自分のむすこか牛が井戸に落ち込んだなら、安息日だからといって、すぐに引き上げてやらない者がいるだろうか』。」(ルカ 14:2-5)

天の働きは決して一瞬たりとも止むことがない。そして、人は善を行うことを決して休むべきではない。安息日の律法は、主の聖別された休息日における労働を禁じている。生活費を稼ぐための骨折りは止めなければならない。主の日における世俗的な楽しみや利益のための労働は律法にかなっていない。しかし、病人を癒されたキリストのお働きは、聖なる安息日を汚すものではなかった。(預言の霊 2 巻 164)

〔パリサイ人、祭司、そして役人たち〕は、人間の伝統や発明について、捨て 去るべきことが多くあった。彼らはエホバの律法の真の原則を学ぶ必要があった。

憐れみ深い神が愛のうちにお与えになった聖なる制度の上に、彼ら自身が考案して積み上げた伝統的な強要というごみを追い散らすために教訓が与えられなければならないことを、キリストはご覧になった。安息日はユダヤ人がしたようなもの一絶え間ない彼ら自身の発明が追加され山と積まれる厳格な重荷や強要ーとなるべきではなかった。この手段によってこの日は、サタンが人の思いに働きかけてしようとしていたもの一喜びの代わりに嘆かわしいくびきーとされてしまった。(レビュー・アンド・ヘラルド 1897 年 8 月 3 日)

主はどの人種に属するかに関わらず、ご自分が造られた被造物を同情をもって ご覧になっている。……神はわたしたちの共通のみ父であり、わたしたちは各々 自分の兄弟の見張り人である。」(同上 1896 年 1 月 21 日)

本物の医事伝道の働きは、神の戒めを守ることと不可分に結ばれている。神の戒めの中で特に安息日が述べられているのは、その日が神の創造のみわざの大いなる記念だからである。安息日の遵守は、人のうちに神の道徳的みかたちを回復する働きと結びついている。神の民がこの時代に進めなければならないのは、この伝道である。この伝道は、正しく行われるならば、教会に豊かな祝福をもたらす。(教会への証6巻266)

不信が中風にする!

「イエスは〔ベテスダの病人〕に言われた、『起きて、あなたの床を取りあげ、そして歩きなさい』。すると、この人はすぐにいやされ、床をとりあげて歩いて行った。その日は安息日であった。そこでユダヤ人たちは、そのいやされた人に言った、『きょうは安息日だ。床を取りあげるのは、よろしくない』。」(ヨハネ 5:8-10)

イエスが約束されたメシヤであられるという豊かな証拠が提示されてきた。 しかし、疑おうと思う者はみなその機会を見い出した。神はご自分が望まれる者 を通して、またご自分の選ばれる方法と手段を通して働かれる。しかし、いつで も批判的なパリサイ人のような役割を果たす人々がいるものである。パリサイ人は 哀れな苦しむ人の癒しを、殺人発生の機会とすることができたのであった。彼ら は神のしもべを通して神の力が表されたことは否定できないが、なおある点で働 きが彼らの判断とは一致しない。そして、もしわずかな言い訳でも見出すことが できるなら、彼らはおかまいなしに疑問を差し挟み、疑い、反対するのである。

不信はいつでもそれ自体の存在理由を見出す。もし人がベテスダでの奇跡ほどの神の力の証拠がありながら、救い主の働きを批判し、責めることができるとすれば、今日彼らが批判し、責めるからといって不思議に思うことができるであろうか。神は疑いの可能性がないからではなく、知的な信仰が基とすることのできる豊かな証拠があるがゆえに人が信じることを望まれる。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ1886年7月15日)

神はご自分の買われた所有を愛され、サタンが彼らを圧倒しようとする失望に打ち勝つのをご覧になりたいと切望しておられる。不信の思いがあなたの魂を苦しめることを許してはならない。なぜなら、不信は、霊的な精力におよぶ中風のように働くからである。(同上 1896 年 9 月 10 日)

〔医事伝道の働き〕は、北も南も東も西も、すべての地元の教会がなすべき働きである。教会はこの働きに応える機会が与えられてきた。なぜ、彼らはそれをしてこなかったのであろうか。だれかが任務を果たさなければならない。……

ああ、どれほど多く、どれほど非常に多くのことがなされずにそのままになっていることであろうか。そしてそれにもかかわらず、どれほど多くの人々が神から与えられたタラントを正しく用いることができるはずでありながら、自分自身を心にかけ、喜ばせること以外はほとんど何もしていないことであろう。しかし、主のみ手はまだのばされている。そしてもし彼らが今日このお方のぶどう畑で働こうと思えば、このお方は彼らの奉仕を受け入れて下さるのである。(福祉伝道 122)

小さいグループを助ける

「もし、モーセの律法が破られないように、安息日であっても割礼を受けるのなら、安息日に人の全身を丈夫にしてやったからといって、どうして、そんなにおこるのか。うわべで人をさばかないで、正しいさばきをするがよい」。(ヨハネ 7:23, 24)

イエスがご自分を擁護し、律法の精神を解釈なさった大胆さは、役人たちを 沈黙させた。(預言の霊 2 巻 341)

もしわたしたちが従順な者に約束された祝福を望むならば、もっと厳密に安息日を守らなければならない。わたしはわたしたちがしばしばこの日に避けることができる時に旅行しているのではないかと恐れる。主が安息日遵守に関して与えて下さった光と調和して、この日に船や〔汽車〕で旅行することに関してもっと気をつけるべきである。これらの事柄において、子供や青年たちに正しい模範を示すべきである。わたしたちの助けを必要としている教会に到着し、神が彼らに聞かせたいと望んでおられるメッセージを伝えるためには、安息日に旅行することは必要かもしれない。しかし、できるかぎり切符の購入やすべての必要な準備はほかの日になすべきである。……

機会がある時はいつでも、他の人々に真理に関して話すべきである。(教会への証6巻359,360)

道徳的責任を軽く扱ったり、小さい事の日をさげすむことは安全ではない。(同 上4巻 618)

安息日にわたしは、神の聖日を敬ってこのお方の礼拝のために集まる小さなグループに自由に語った。交わりの集会が続き、そこでは 16 人の証があった。わたしたちは主のご臨在が大きな集会に限られてはおらず、このお方のみ名によって集まる二人、三人のところにあることを実感した。このお方は彼らとお会いになる。すべての人が強められ、励まされたようであった。わたしはキリストのうるわしい平安とこのお方の御霊の慰めを感じた。わたしは健康がすぐれなかったが、神の恩寵の尊い証拠は、払った努力に報いてあまりがあった。

わたしたちの小さめの諸教会にもっとしばしば訪問することができれば、真理を擁護して堅く立つ忠実な人々は、自分たちの兄弟の証によって元気づけられ、強められることであろう。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ1882年1月12日)

十字架以後の安息日遵守

「〔アリマタヤのヨセフ〕がピラトのところへ行って、イエスのからだの引取り方を願い出て、それを取りおろして亜麻布に包み、まだだれも葬ったことのない、岩を掘って造った墓に納めた。この日は準備の日であって、安息日が始まりかけていた。イエスと一緒にガリラヤからきた女たちは、あとについてきて、その墓を見、またイエスのからだが納められる様子を見とどけた。そして帰って、香料と香油とを用意した。それからおきてに従って安息日を休んだ。」(ルカ 23:52-56)

ていねいに、うやうやしく彼らは、自分たちの手でイエスのおからだを十字架からおろした。傷つき破れた主のおからだを見たとき、同情の涙が走り落ちた。ヨセフは、岩に堀られた新しい墓を持っていた。これは自分のためにとっておいたものであったが、カルバリーの近くにあったので、いま彼はその墓をイエスのために準備した。主のおからだは、ニコデモが持ってきた香料といっしょに念入りに亜麻布でまかれ、あがない主は墓にはこばれた。そこで三人の弟子たちは、傷ついた主の足をまっすぐにのばし、破れたその両手を息のたえた胸の上に組み合わせた。ガリラヤの女たちがやってきて、愛する師のなきがらの処置に手落ちがないように気をくばった。それから彼らは、重い石が墓の入口にころがされて、救い主が休まれたままにおいておかれるのを見た。女たちは最後まで十字架の下に残り、最後までキリストの墓に残った。たそがれの影が濃くなってきても、マグダラのマリヤとほかのマリヤたちは、主の休まれた場所のあたりを立ち去りかねて、愛するおかたの運命に悲しみの涙を流した。(各時代の希望下巻 300,302)

ルカは救い主の埋葬についての自分の記録の中で、このお方の十字架の時に、このお方と共にいた女たちについて、「そして帰って、香料と香油とを用意した。それからおきてに従って安息日を休んだ」と述べている(ルカ 23:56)。

救い主は金曜日、すなわち週の第六日に埋葬された。女たちは主の体に施す 香料と香油を用意して、それをそのままにしておき、安息日が過ぎるまで待った。 イエスの体に香料を施す働きでさえも、彼らは安息日には行わないのであった。(イ エスの物語 157)

機会をつかむことを学ぶ

「パウロとその一行は、パポスから船出して、パンフリヤのペルガに渡った。ここでヨハネは一行から身を引いて、エルサレムに帰ってしまった。しかしふたりは、ペルガからさらに進んで、ピシデヤのアンテオケに行き、安息日に会堂にはいって席に着いた。律法と預言書の朗読があったのち、会堂司たちが彼らのところに人をつかわして、『兄弟たちよ、もしあなたがたのうち、どなたか、この人々に何か奨励の言葉がありましたら、どうぞお話し下さい』と言わせた。そこでパウロが立ちあがり、手を振りながら言った。『イスラエルの人たち、ならびに神を敬うかたがたよ、お聞き下さい。』」(使徒行伝 13:13-16)

すべての人が、今自分たちの運命を決定しつつある。人々は時代の厳粛さ、人類の恩恵期間が終わる日が近づいていることを悟るために目覚める必要がある。この時代のためのメッセージを人々の前に際立たせるために決定的な努力がなされるべきである。第三天使は非常な力をもって出ていくべきである。だれもこの働きを無視したり、重要性の薄いものとして扱うことのないようにしなさい。神の民は自分たちの働きが世界中をめぐるまで止めてはならない。真理がすべての人類に宣布されなければならない。……

わたしたちは世界中が見ている中で自分たちの原則を擁護して堅く立たなければならない。……様々な賜物をもったあらゆる階級、能力の人々が、神から与えられた武具を身にまとい、共通の結果を目標に調和して協力しなければならない。彼らは真理をあらゆる国民と人々に伝える働きにおいて一致しなければならない。((オーストラリアの)連合総会記録 1901 年 1 月 1 日)

み言葉の真理が魂のうちに織り込まれなければならない。それは受けた者の魂を祝福するために内に働き、他の人々の魂を祝福するために外に働く力である。 み言葉を読むとおりに受け入れ、それを行う者となりなさい。聖霊は聖書を探る献身した魂に働いて下さる。

今、まさに今こそ、わたしたちが命の言葉を研究すべき大きな機会である。この世の多くの人々の心は命の言葉に飢えており、救いの水に渇いている。彼らは聖書を知りたいと望んでいる。彼らは、神が彼らに仰せになっている言葉を知りたいと望んでいる。聖霊は彼らの心に印象づけて下さり、彼らを命の言葉へと引き寄せて下さっている。彼らは自分たちの周りが何もかも変っていくのを見ている。彼らは書かれてある通りのみ言葉を聞きに来る。彼らが堅固な基礎の上に建てたいと願っているがゆえに、クリスチャンは自分たちのうちにある望みの理由について柔和と畏れをもっていつでも説明できるようにしなさいと勧告されている。(ルビュー・アンド・ペラルド1900年5月1日)

異邦人が安息日を喜ぶ

「ふたり (ユダヤ人) が会堂を出る時、人々 (異邦人) は次の安息日にも、これ と同じ話をしてくれるようにと、しきりに願った。そして集会が終ってからも、大ぜ いのユダヤ人や信心深い改宗者たちが、パウロとバルナバとについてきたので、ふ たりは、彼らが引きつづき神のめぐみにとどまっているようにと、説きすすめた。 次の安息日には、ほとんど全市をあげて、神の言を聞きに集まってきた。」(使徒行 伝 13:42-44)

ユダヤ人が……会堂を去った後も、異邦人たちはまだそこに残り、次の安息日にも自分たちにこれと同じ話をしてくれるようにと願った。使徒たちはその場所でユダヤ人にも異邦人にも大変な関心を呼び覚ました。彼らは信徒や改心者たちに、自分たちの信仰のうちに固く立って、引き続き神の恵みにとどまっているようにと励ました。使徒たちの言葉を聞きたいという関心があまりにも大きかったために、次の安息日には、全市を上げてやってきた。しかし今や、キリストの時代と同じように、ユダヤ人の祭司や役人が、新しい教理を聞くために集まった大群衆を見たとき、ねたみと嫉妬に動かされた。……会衆のユダヤ人の中に多数の異邦人がいるのに気づいたとき、彼らのかつての偏狭や偏見もまた目覚めたのであった。……

彼らはある安息日に、イエスを約束されたメシヤとして宣布していたパウロとバルナバの教えを非常な興味をもって聞いていた。次の安息日に、異邦人の群衆もまた彼らの言うことを聞くために集まっていたために、彼らは憤りのあまり熱狂するまでに興奮し、使徒たちの言葉は彼らの思いの中でゆがめられた。そして彼らは使徒たちによって提示された証拠を量るのにそぐわないものとなった。使徒たちによって宣布されているメシヤは、このお方の民であるイスラエルの栄光であると同様に、異邦人にとって光となられることがわかると、彼らは怒りのあまりにわれを忘れて、使徒たちに対し、最も侮辱的な言葉を用いた。

その一方で異邦人たちは自分たちが神の子として認められたことをはなはだしく喜んだ。そして感謝の心をもって、彼らは宣布されるみ言葉を聞いた。使徒たちは今やはっきりと神が彼らにおさせになりたい義務と働きを見極めた。彼らはためらうことなく異邦人たちに向かい、彼らにキリストを宣べ伝えた。(パウロの生涯からのスケッチ 48-50)

実り多い伝道者である安息日

「ある安息日に、〔パウロ、シラス、テモテ、ルカ〕は町の門を出て、祈り場があると思って、川のほとりに行った。そして、そこにすわり、集まってきた婦人たちに話をした。ところが、テアテラ市の紫布の商人で、神を敬うルデヤという婦人が聞いていた。主は彼女の心を開いて、パウロの語ることに耳を傾けさせた。」(使徒行伝 16:13, 14)

ルデヤは喜んで真理を受け入れた。彼女と彼女の家族は改心してバプテスマを受けた。そして彼女は使徒たちに自分の家に泊まってほしいとしきりに願った。

神の御霊だけが、啓発されることを喜ぶ者たちの理解力を啓発することができる。わたしたちは神がルデヤの耳を開かれ、パウロによって語られるメッセージに注意がむけられるようにして下さったことを読む。神の勧告全体と、ルデヤが受け入れるために重要不可欠なことをすべて宣言すること―これが彼女の改心においてパウロの果たすべき役割であった。それから、あらゆる恵みの神がご自分の力を働かせ、魂を正しい道へ導いて下さるのであった。神と人間の代理人が協力した。そして働きは完全に成功であった。(キリストを映して343)

あらゆる場所に病人が見出されるであろう。だから、キリストのための働き人として出ていく人々は、病気にかかっている人にそれらを癒す単純な治療法を教え、それから彼らと共に祈る準備のできた真の健康改革者であるべきである。こうして彼らは真理が入るための戸を開くことになる。この働きをするとき、良い結果が続く。安息日を遵守するわたしたちの家族は、隣人に対する助けとなれるように、自分たちの思いが健康改革や他の分野の真理の健全な原則で満たされているように保つべきである。実践的な伝道者となりなさい。病気の治療に助けとなる可能な限りあらゆる知識を集めなさい。勤勉な生徒であればこれが可能である。

わずかな者しかわたしたちの医事施設における訓練課程を履修することはできないが、すべての者がわたしたちの健康の文献を研究し、この重要な主題に関して知的になることができる。(医事伝道 320)

言葉やパンフレットによって光を普及させるためにすべての人に万全の準備をさせなさい。秋の木の葉のように何百もの小さなトラクトがまかれるべきである。 (原稿リリース4巻107)

キリストにおける霊的休息の象徴

「ところが、わたしたち信じている者は、安息にはいることができる。それは、『わたしが怒って、彼らをわたしの安息に、はいらせることはしないと、誓ったように』と言われているとおりである。しかも、みわざは世の初めに、でき上がっていた。すなわち、聖書のある箇所で、七日目のことについて、『神は、七日目にすべてのわざをやめて休まれた』……こういうわけで、安息日の休みが、神の民のためにまだ残されているのである。なぜなら、神の安息にはいった者は、神がみわざをやめて休まれたように、自分もわざを休んだからである。したがって、わたしたちは、この安息にはいるように努力しようではないか。そうでないと、同じような不従順の悪例にならって、落ちて行く者が出るかもしれない。」(ヘブル 4:3, 4, 9-11)

だれも聖化された時間を自由に無益なやり方で過ごしても良いと感じるべきではない。安息日遵守者が安息日の多くを眠ることは、神にとって不快なことである。彼らはそうすることによって自分たちの創造主を辱め、また自分たちの模範によって、彼らにとっては六日間が休息の時間を取るにはあまりにも貴重だと言っているのである。彼らは必要な睡眠を自ら奪い、そのために聖なる時間に眠ることによって埋め合わせをすることになってでも、お金を稼がなければならない。彼らば安息日は休息の日として与えられた。わたしは休息を必要としているから、集会に出るために休息を自ら奪うことはしない」と言い訳する。そのような人は聖化された日を悪用しているのである。彼らは特別その日に、家族に安息日の遵守に関わらせ、事情に合わせて、数人もしくは多くの人々と祈りの家に集まるべきである。彼らは自分たちの時間と精力を霊的な訓練に捧げて、安息日に宿る神聖な感化力が週の間彼らに伴うようにすべきである。一週のうちで、安息日ほど献身的な思いと気持ちのために好ましい日は他にない。

全天は安息日に第四条の要求を認める人々が安息日を守るかどうかを眺め、 見張っていることを示された。御使たちはこの神聖な制度への彼らの関心と高い 敬意に注目している。厳密な敬神の思いをもって主なる神を自分たちの心の中で 聖別する人々、また最大限の能力を生かして安息日を守り、神聖な時間を活用 しようと努める人々、安息日を喜びの日と呼ぶことによって神に誉れを帰すよう努 める人々一これらの人々は、御使たちが特別に祝福している。(教会への証 2 巻 704, 705)

正しい道しるべに従おう!

「あなたがたは必ずわたしの安息日を守らなければならない。これはわたしとあなたがたとの間の、代々にわたるしるしであって、わたしがあなたがたを聖別する主であることを、知らせるためのものである。」(出エジプト記 31:13)

クリスチャン世界は神の印以外のものを選んできた。わたしの読んだ記述を少し引用する。そのタイトルは、「変えられた道標」であった。「何年か前、……二つの道が出会う分岐点に立てられた道標の向きを変えることが面白い冗談だと思われていた。もちろん、それによってしばしば生じた困惑と悲惨さとは大きなものであった。かつてこの世の旅路を行く人々のために神によって道標が立てられた。幸福への道は、かつてユダヤ人の時代下における逃れの町への道のようにはっきりと区別されていた。道標の一方の矢印は、幸福への道として創造主への愛の従順を指し示していた。その一方もう一つの矢印は悲惨さへの道として、不服従、もしくは罪が指し示されていた。わたしたち人類の邪悪な時代に、大敵が道標の向きを変えたため、その時以来、大多数の人々は真の幸福への道を誤っている。」

主は明確に命と真理は従順の道で見出されると述べてこられた。従順はすべての人が従うべき地境である。神は第七日目が主の安息日であると宣言してこられた。このお方はこの日が代々にわたりご自分とご自分の民の間のしるしとなるべきであるとはっきり述べられて、この日をご自分の創造のみわざの記念日として高められた。出エジプト記の31章では三度繰り返されており、その語り手はイエス・キリストであられたのである。……

主ははっきりと神の都への道を定められたが、大敵が偽りのもの一偽の安息 日一を立てることによって、道標を変えてしまった。……

あらゆる善に対する敵が道標の向きを変えてしまったために、道標は不服従の道を幸福への道として指し示している。彼は、「主はこう言われる」に従うことを拒むことによってエホバを侮辱した。彼は時と律法を変えようとした。しかし、それができたであろうか。出エジプト記 31 章のみ言葉がこの問題に対して答えている。ご自身の指をもって主は石の板に戒めを記されたのである。(レピュー・アント゚・ヘラルド1900 年 4 月 17 日)

永遠の契約

「ゆえに、イスラエルの人々は安息日を覚え、永遠の契約として、代々安息日を守らなければならない。これは永遠にわたしとイスラエルの人々との間のしるしである。それは主が六日のあいだに天地を造り、七日目に休み、かつ、いこわれたからである』」。(出エジプト記 31:16, 17)

わたしたちはこれほどはっきりとした言葉で与えられた神のご命令をわきに置き、不法者の道に従うのであろうか。だれがあえて道標を変え、誤った道を指し示させ、不法の者を擁護するのであろうか。人間の制度を主の偉大な記念のあるべきところに据えることは恐ろしいことである。神が聖別され、祝福され、ご自分の聖なる日として宣言された日をわきへ置くために、人間が力をほしいままにして、その場所に通常の働き日を据えること、また人々がこの日を敬い、崇敬するように強要しようとすることは恐ろしいことである。

主の言葉は真理である。わたしたちはその意味を間違えようがないほど、それははっきりしている。人々が必要としているのは証拠ではない。なぜなら、彼らにはそれがあるからである。しかし、彼らは主の戒めの道に歩みたくないのである。世は神聖なみ旨に反対して歩んでいる。しかし、神はこの地上に民をもっておられる。そしてこのお方と彼らの間で安息日はしるしであり、それによって彼らは主が自分たちを聖化して下さる主であられることを知るのである。……

主はわたしたちに何を要求しておられるであろうか。ご自分の安息日を「永遠の契約として」遵守することである。神はすべての家族がこの印を帯びることを望んでおられる。こうして、わたしたちは神の戒めに忠実で真実であることを示すことができる。神への不敬に満ちているこの世を見なさい。一瞬で命の息を呼吸するすべての魂を滅ぼすことのできるお方に対してあからさまな反逆のうちにいる。何がこの世をこれほど暴力の満ちたところとしたのであろうか。神の律法に対する軽蔑である。これが洪水前の世に反逆と堕落を満たしたものであった。今日偽の安息日に対して示される敬意を見なさい。そしてこの偽の休息日を守るために法律を作る人々はまた、酒の取引を合法化するために法律を作る。理性を取り去ることによって、神のみかたちに造られた存在を残酷にするのろいである。(ルヴェー・アンド・ヘラルド1900年4月17日)

「主の日に御霊に感じた」

「あなたがたの兄弟であり、共にイエスの苦難と御国と忍耐とにあずかっている、 わたしヨハネは、神の言とイエスのあかしとのゆえに、パトモスという島にいた。と ころが、わたしは、主の日に御霊に感じた。」(黙示録 1:9, 10)

「神の戒めを守る人は、神におり、神もまたその人にいます」(ヨハネ第一3:24)。

神の戒めへの従順によって、神を尊ぶ人々を神は尊んで下さる。愛された弟 子ヨハネは、その忠実さのゆえにパトモス島に流されていた。彼は次のように記 している、「あなたがたの兄弟であり、共にイエスの苦難と御国と忍耐とにあずか っている、わたしヨハネは、神の言とイエスのあかしとのゆえに、パトモスという 島にいた。ところが、わたしは、主の日に御霊に感じた」(黙示録 1:9, 10)。ヨ ハネはここで日曜日のことを言っているのであろうか。主の日と呼ばれる日はただ 一日だけであり、それは週の第七日目、すなわち創造の時に制定された安息日 である。神は六日の間に世界を創造され、七日目に休んで、新たに活力を得ら れた。神はこの日を祝福し、聖化し、そして創造の記念として守るために取りお かれた。そしてこの第七日目にヨハネは自分の後ろのほうで「ラッパのような大き な声がするのを聞いた。その声はこう言った、『あなたが見ていることを書きもの にして、それをエペソ、スミルナ、ペルガモ、テアテラ、サルデス、ヒラデルヒヤ、 ラオデキヤにある七つの教会に送りなさい』。」「そこでわたしは、わたしに呼びか けたその声を見ようとしてふりむいた。ふりむくと、七つの金の燭台が目についた。 それらの燭台の間に、……人の子のような者がいた」(黙示録 1:10-13)。 こうして、 キリストはヨハネの変わらないご自分への従順のゆえに、彼を尊ばれた。

アダムとエバは、他の者の言葉を神の言葉より優先して受け入れたために、エデンや命の木への道を一切失った。この不服従の行為によって、苦悩の洪水の門がわたしたちの世に開かれた。しかし、神のみ言葉に変わらず固守する人々は、次の祝福を聞くようになる、「いのちの木にあずかる特権を与えられ、また門をとおって都にはいるために、このお方の戒めを行う者たちは、さいわいである(黙示録 22:14 英語訳)。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ1897年5月13日)

神の聖化の印

「わたしはまた彼らに安息日を与えて、わたしと彼らとの間のしるしとした。これは主なるわたしが彼らを聖別した(聖化する)ことを、彼らに知らせるためである。」(エゼキエル 20:12)

安息日は神とその民を一つにする留め金である。(レビュー・アンド・ヘラルド 1902 年 10 月 28 日)

神に聖別され祝福されて、安息日は創造の偉大な記念、また人類への祝福となるよう計画された。しかし、人間はそれを足の下に踏みにじった。キリストが人のかたちをとってわたしたちの世に来られたときに、このお方がテストであったように、安息日は今日のテストである。それは、ユダヤ国家に対するキリストのように、クリスチャン世界に対する動かされない攻撃の岩としていつまでも立つのである。キリストを拒絶することがユダヤ人の永遠の運命を決定したように、神の聖なる記念日を拒絶することが多くの自称クリスチャンの運命を決定する。

多くの人が安息日を無視し、それを自分たちの足の下に踏みつけるかもしれないが、彼らは自分たちに対するその拘束力を少しでも減じることはできないのである。だれひとりとして、主の安息日の上に積み上げられたごみを受け入れる言い訳の余地はない(同上 1898 年 12 月 20 日)

偽の安息日のために神の聖なる休日を無視する自称クリスチャンによって、聖化が主張されている。しかし、神はその戒めに従うことによってご自分を尊ぶ人々だけに、ご自分からくる聖化が与えられることを宣言しておられる。不法のうちにい続ける人々によって主張される聖化は、偽の聖化である。こうして宗教界は神と人の敵によって欺かれている。

宮の奉仕において、主は祭司たちに神ご自身がともされた聖なる火だけを自分たちの香炉に用いるようにと特別な指示をお与えになった。それを昼も夜も保たなければならなかった。しかし、ナダブとアビフは、ぶどう酒を用いることによって判断力をゆがめ、聖なるものと俗なるものの間の区別ができなくなった。彼らは、「おのおのその香炉を取って火をこれに入れ、薫香をその上に盛って、異火を主の前にささげた。これは主の命令に反することであった」(レビ記 10:1)。

週の第一日目をきよく守るために主の安息日を無視する人々は、神に異火を捧げているのである。それは主が彼らにお命じなったことのない、異なる安息日である。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ1898 年 3 月 31 日)

このお方がわたしたちの神であるというしるし

「わが安息日を聖別せよ。これはわたしとあなたがたとの間のしるしとなって、主なるわたしがあなたがたの神であることを、あなたがたに知らせるためである。」 (エゼキエル 20:20)

人は安息日に関して、わたしたちが時の七分の一を守っているなら、どの日を守ろうと違いはないと言う。彼らはどうして神のみ言葉を人の言葉と取り換えるようなことがあえてできるのであろうか。どうして人類同胞を創造主への服従から導きそらすようなことができるのであろうか。……

人間の理論をもっている人は、わきへ退かせなさい。神のみ声が、「それゆえ、あなたがたは安息日を守らなければならない。これはあなたがたに聖なる日である。……これは永遠にわたしとイスラエルの人々との間のしるしである」と仰せになるのが聞かれるようにしなさい(出エジプト記 31:14, 17)。……

神の律法が無効にされている。そして、神はわたしたちに真理を擁護して立つようにと召しておられる(レピュー・アンド・ヘラルド 1901 年 6 月 4 日)

安息日を生ける神の印として知っているわたしたちは、そのしるしを捨てること に同意するのであろうか。わたしたちはそれを捨てたいのであろうか。あるいは、わたしたちは神の戒めを守る民を区別するために神が与えて下さったしるしを守り、大事にしたいと望むのであろうか。この偉大な真理に対する世の頑固な不信によって、真理の重要性が減じることはない。わたしたちが従うことを拒んだとしても、それはなお真理である。もし導いていただかないなら、それはわたしたちを責めるのである。

今は、無効にされてきた神の戒めを尊ぶようにとこのお方が召しておられる時である。わたしたちの上に光が照らされるや否や、わたしたちは声とペンと感化力によって、神の律法の破れを繕うように努めなければならない。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1893 年 6 月 12 日)

神はご自分の愛と憐れみの、またご自分の民の従順の、継続的な印とするために、安息日をお与えになった。ご自分がこの日に休まれ、新たに活気づけられたように、このお方はご自分の民が休息し、新たに活気づけられることを望んでおられる。それは自分たちが神の恵みの契約のうちに含まれていることを常に彼らに思い起こさせるべきであった。このお方は次のように言われる、安息日はあなたがたの時代を通じて、わたしがあなたがたを聖化する主であり、わたしの特別な民としてあなたがたを選び取り分けたというわたしの印、わたしの誓いとなるべきである。そしてあなたがたが安息日をきよく守るとき、あなたがたは地上の国々に、自分たちがわたしの選んだ民であることを証するのである。(ルピュー・アンパ・ペラル・1902年10月28日)

終りの時代のためのメッセージ

「主はこう言われる、あなたがたは公平を守って正義を行え。わが救の来るのは近く、わが助けのあらわれるのが近いからだ。安息日を守って、これを汚さず、その手をおさえて、悪しき事をせず、このように行う人、これを堅く守る人の子はさいわいである」。(イザヤ 56:1,2)

この危険な時代、わたしたちが神の律法に対する全世界的な軽蔑を見、世 界が第四条の安息日と偽ものの安息日の間で選択しつつあるときに、わたしたち は安息日についての主の言葉を減じるようなことを一言でも言うのであろうか。主 なる天の神は、蔓延した悪が選ばれた信徒たちに対して、どれほど鈍感にする 感化力を及ぼし、またどれほど神への敬神と真の忠誠に対して麻痺させる力とな るかをご存じであった。わたしたちの主なる救い主の再臨が近づいているしるし である出来事についてわたしたちに述べて、キリストは、「不法がはびこるので、 多くの人の愛が冷えるであろう」と言われる (マタイ 24:12)。 わたしたちはこれが |文字通りに成就していることを見る。多くの人の経験は矮小化(わいしょうか) し、 病的になり、そして驚くほど損なわれている。わたしたちを囲むすべてのものは、 不義にまみれた雰囲気を作り出している。最も忠実な状況にあってさえ、クリス チャンの信仰告白を終りまで堅く保ち、聖徒たちにひとたび伝えられた信仰のた めに、断固として立ち、熱心であることは難しい。しかし、互いに助け、励ます人々 の数が少なく、これらの人々の多くが神の戒めを真に忠実に守ることによって神 を尊ばないがゆえに、病的で今にも死にそうなとき、神の聖なる戒めに対して真 実かつ忠実であり続けることは最も困難である。

いわゆるキリスト教が、純真で忠誠な堅実さで通用しているが、これはそれを告白する人々が真理のゆえに迫害を受けていないためである。神の律法が無効にされ、地に住むすべての人を試みる火のような試練によって教会がふるわれる日が来ると、本物だと思われていた人々の大部分が、惑わす霊に耳を傾けて裏切り者となり、聖なる真理にそむくようになる。彼らはわたしたちの最悪な迫害者となる。(同上1897年6月8日)

喜ばしい任務

「もし安息日にあなたの足をとどめ、わが聖日にあなたの楽しみをなさず、安息日を喜びの日と呼び、主の聖日を尊ぶべき日ととなえ、これを尊んで、おのが道を行わず、おのが楽しみを求めず、むなしい言葉を語らないならば、その時あなたは主によって喜びを得、わたしは、あなたに地の高い所を乗り通らせ、あなたの先祖ヤコブの嗣業をもって、あなたを養う。」(イザヤ 58:13, 14)

働き人の小さなグループは主の伝道者として出ていき、キリストが初期の弟子たちに命じられたとおりに行いなさい。二人ずつ、わたしたちの都市の様々な場所へ入っていき、主の警告のメッセージを伝えなさい。人々に創造の物語と、主がご自分の働きを閉じるにあたり、安息日に休んで祝福なさり、ご自分の働きの記念として取り分けられたことを語りなさい。

教会員は老若共に、世にこの最後のメッセージを宣べ伝えるために出ていくよう教育されるべきである。もし彼らが謙遜のうちに行くならば、神の御使たちが彼らに伴い行き、祈りのうちに声を上げること、いかに歌声を上げるか、そしてどのようにこの時代のための福音のメッセージを宣布するかを教えてくれる。一瞬たりとも失ってはならない。……

だれがこの聖書の真理を老若に教える働きに取りかかるであろうか。だれが キリストの働きのご計画に従って、メッセージを伝えるであろうか。 ……

あなたはこのお方のみ声に注意を払うであろうか。あなたはこのお方の使命者となるであろうか。あなたは失われた羊を探すであろうか。あなたは、聞こうとしない人々に謙遜と熱心さをつくしてみ言葉を教えるであろうか。

青年男女の方がた、神があなたを召しておられる働きに取りかかりなさい。十字架の驚くべき物語をかたりなさい。キリストはあなたを導き、良い目的のためにあなたの能力を用いることを教えて下さる。あなたが聖霊の生き返らせる感化力を受け、他の人々に教えようと努めるとき、あなたの思いは新たな活力を受け、あなたの言葉を聞く人々に新しくて不思議に美しい言葉を提示することができるようになる。祈り、讃美し、み言葉を語りなさい。……

霊的な自由は全面的に献身する人々にもたらされる。そしてキリストの生き返らせる恵みは、光と平安と喜びをもたらす。(上を仰いで 91)

破れを繕う者

「あなたの子らは久しく荒れすたれたる所を興し、あなたは代々やぶれた基を立て、人はあなたを『破れを繕う者』と呼び、『市街を繕って住むべき所となす者』と呼ぶようになる。」(イザヤ 58:12)

イザヤ 58 章には神の民がなすべき働きの概要が述べられている。律法の中に破れが作られた。そしてこの破れは繕われなければならない。真の安息日が神の休息の日として正当な地位に回復されなければならない。律法が拡大され、尊ばれなければならない。この働きをする人々に主は、「『破れを繕う者』と呼び、『市街を繕って住むべき所となす者』と呼」ばれるようになると言われる (12 節)。(レビュー・アンド・ヘブルド 1902 年 10 月 28 日)

この地上における神の最後の働きにおいて、神の律法の標準はふたたび高められる。偽りの宗教は普及し、不法ははびこり、多くの人の愛は冷え、カルバリーの十字架は見失われ、死のとばりのような暗黒が世界を覆うことであろう。一般の風潮は、あげて真理に反対するであろう。神の民を滅ぼすために次々と策略がめぐらされることであろう。しかし最大の危機において、エリヤの神は、沈黙させ得ないメッセージの伝達者を起こされるのである。人口緻密な都市において、また、至高者に反対して語ることがその頂点に達した場所において、厳しい譴責の声が聞かれるのである。神の任命を受けた人々が、大胆に教会と世俗との結合を非難するのである。彼らは人間が造った制度を守ることをやめて、真の安息日を守るように熱心に人々に訴えるのである。……

すべての人に試練がやってくる時は、あまり遠くはない。われわれは偽の安息 日を守るように強制される。それは、神の戒めと人間の戒めとの間の争いである。 (国と指導者上巻 155,156)

わたしは、神が、安息日を理解してもいなければ守ってもいない子供たちを持っておられるのを見た。彼らはまだ安息日についての光を拒んではいなかった。 悩みのときの開始にあたって、われわれが出ていってもっと徹底的に安息日を宣べ伝えたとき、われわれは聖霊に満たされた。(初代文集 93)

永遠の前の最後のテスト

「『わたしが造ろうとする新しい天と、新しい地がわたしの前にながくとどまるように、あなたの子孫と、あなたの名はながくとどまる』と主は言われる。『新月ごとに、安息日ごとに、すべての人はわが前に来て礼拝する』と主は言われる。」(イザヤ 66:22, 23)

どの地上統治者も、六日の間に世界を造って第七日目に休まれ、それを聖別し祝福された統治者より上に見られてはならない。(原稿リース3巻39)

わたしたちがどの日に休もうと、七日の間の一日であれば何の違いもないといって、神の定められた安息日の遵守を拒む言い訳がしばしばなされる。しかし、あなたがどの日に休むかは全くの違いをなす。神の命じられた日に休むことはあなたが天地の造り主を尊んでいる事実を表し、無視するという事実はあなたが神を尊ばないことを明らかにするのである。(サインズ・オプ・ザ・タイムズ1894年1月8日)

歴史は繰り返す。偽りの宗教が高められる。週の第一日目、すなわち神聖さも何もない普通の働く日が、バビロンにおける偶像のように打ち立てられるようになる。……

試練と迫害は、神のみ言葉に対して従順で、この偽りの安息日に礼拝することを拒むすべての人に及ぶ。武力はすべての偽りの宗教の最終手段である。はじめはバビロンの王が音楽や外面的な見せびらかしの力を試したように、魅力あるものをためす。サタンの霊感を受けた人間の発案したこれらの魅力では、人々に偶像を拝ませることができないとき、なめつくす炉の炎が彼らを焼きつくそうと待ち構えていた。今も同じである。(同上 1897 年 5 月 6 日)

主に対して安息日をきよく守ることは、永遠の救いを意味する。神は「わたしを尊ぶ者を、わたしは尊」ぶと言われる(サムエル上 2:30)。(教会への証 6 巻 356)

天地が存続する限り、安息日も創造主の力のしるしとして続く。そしてエデンが地上で再び花開くとき、神の聖なる休日も日の下のすべてのものによって尊ばれるのである。「新月ごとに、安息日ごとに、すべての人はわが前に来て礼拝する」と主は言われる(イザヤ 66:23)。(ルビュー・アンド・ヘラルド 1910 年 8 月 18 日)

Good Way Series 研究 1-6



2. 第二の局面一後の雨

1888年、すなわち黙示録 18章の御使がきたとき、その御使はそのメッセージを実際に受け入れた人々を代表したのでした。この御使の使命の最初から終りまで、この天使はただ真の再臨信徒と自らを同一とみなします。ですから、預言されたふるいにおいて、この天使が背教した大多数とではなく、忠実な少数の側にいることがわかります。預言は次のように述べています。

「あらしが迫ってくるとき、第三天使のメッセージを信じると公言していながら、真理に従うことによって清められていなかった多くの者が、その信仰を捨てて反対の側に加わる。彼らは世俗と結合し、その精神を抱くことによって、ほとんど同じ見方で物事を見るようになっている。そして、試練が来ると、彼らはすぐに、安易で一般うけのする側を選ぶのである。…彼らは、以前の兄弟たちにとって、最も苦い敵となる」(各時代の大争闘下巻 378)。

「しかし〔この時〕神は、まだバビロンの中にご自分の民を持っておられる。 そして…これらの忠実な人々を呼び出して…そこでこの天使一天から下って来、栄 光をもって地を照らし、力強い声でバビロンの罪を知らせる天使一によって象徴 されているところの運動が起こる…。これらの布告は第三天使の使命とともに、 地上の住民に与えられる最後の警告なのである」(各時代の大争闘下巻 372)。

「この迫害の時に、主のしもべたち〔黙示録 18 章の運動と同一視される以前の兄弟たち〕の信仰が試みられる。彼らは、神と神の言葉だけに頼って、忠実に警告を発してきた」(各時代の大争闘下巻 378, 379)。

大いなる叫びを鳴り響かせるのは、これまで見てわかるように、小さい忠実な「残りの民」すなわち、改革していない母「教会」とは明確に区別された者

の責任となります (教会への証 5 巻 211, 213, 524)。「神の契約の箱を負うように」召されたこの忠実な少数の群れについて、「真理は彼らの手中で損なわれたり、その力を失ったりすることはない」と書かれています。狭い道を旅している「以前の兄弟たち」で構成されているこの小さい「群れ」は (教会への証 2 巻 594,595)、まず、神の民であると公言する者に彼らのとがと、「ヤコブの家にその罪を告げ示さ」ねばなりません (牧師への証 411)。最後の警告を伝えること、すなわち、大いなる叫びは彼らの事業の最後の部分なのです。預言の霊はこの事件を次のように述べています。

「天の使命者たちがあちらこちら走りながら、すべての可能な限りの手段を用いて、来るべき審判に対して民に警告し、わたしたちの主イエス・キリストを通して得る救いの喜ばしい便りを伝えているのが見られるようになる。義の標準は高められなければならない。神の御霊が人々の心を動かし、その働きに応じる者は、世の光となるであろう。ペンテコステの聖霊の降下の後の弟子たちのように、至る所で彼らが自分の受けた光を他の人々に伝えているのが見られる。そして彼らがその光を照らすとき、彼らはますます聖霊の力を受ける。地は神の栄光によって明るくされるのである。

しかし、なんと悲しい場面であろう!…神はご自分の聖霊を教会から取り除き、それを感謝する他の人々にお与えになるであろう。

大いなる光を受けた者が、彼らの光をやみの中にいる人々に照らすことを拒んで、形式と儀式を行うために彼らの時間を費やす事ほど、その光を感謝していないという大きな証拠はない。内なる働きを考えることや、心の清めの必要などは心に抱かれていない。神との調和のないことが明らかになっている。光はぼやけて、消え去る。燭台は取り除かれている」(レビュー・アンド・ヘラルド1892年12月13日)。

「第三天使の大いなる叫びの時、敵によってある程度盲目となった人々、サタンの罠から完全に回復しなかった人々は危険のうちにいる。なぜなら、彼らは天からの光を識別することが難しくなっているので、欺瞞を受け入れる傾向にあるからである。彼らの誤った経験が彼らの思想、決定、計画、勧告をゆがめる。神の与えてくださった証は、光の代わりに暗闇を選ぶことによって自ら盲目となった人々にとって、なんの証にもならないであろう。光を拒絶した後、彼らは、自分たちが『光』だと呼ぶ理論を考案するであろう。しかし、主はそれらを、彼らの歩みを導くために『彼ら自らが点じた灯』と呼ばれるのである」(いじュー・アンド・

ヘラルド 1892年12月13日)。

「キリストのみ事業は裏切られるであろう。真理の光を受け、その祝福を喜んだが、その光に背を向けてきた人々は、神の霊を抑えようとする。黄泉からの霊が吹き込まれ、彼はかつて建てたものを取り壊して、信頼できないものを、全ての理性的な神を恐れる魂に示すようになる。彼らは真理と義だと主張するが、彼らの精神と行為は、彼らが主に対する裏切者であることを証明する。彼らはサタンの属性を聖霊の働きと呼ぶのである」(レピュー・アンド・ヘラルド 1898 年 5 月 24 日)。

「諸教会において神の驚くべき力が現されるようになる。しかし、それは自らを主の前にへりくだらせてこなかった人々、告白と悔い改めによって自分たちの心の戸を開いてこなかった人々の心を動かすことはない。神の栄光をもって地を明るくする力のあらわれの中に、彼らはその盲目の故に自分たちが危険だと思うもの、彼らの恐れをかきたてるものしか認めることができない。そして彼らはそれに抵抗するために身構える。主が彼らの考えや期待どおりに働かれないので、彼らはその働きに反対する。『こんなに長年のあいだ働きに携わってきたわれわれは、神の霊がわかるはずではないか』と彼らは言うのである。なぜなら、彼らが神の語られた警告に、神のみ言葉の嘆願に応じず、頑に『わたしは富んでいる、豊かになった、何の不自由もない』と言い続けてきたからである」(レピュー・アンド・ヘラルド1890年12月23日)。

らおとずれる多くの日のことを考えておられました。ご自分が造っておられる世界は、ただのおもちゃや遊びごと、つまりご自分が飽きた時にはほうり出すようなものではありませんでした。このお方は永遠のために建てておられたのです。だからこそ、神さまは日や月が日々のすぎるしるしとされただけでなく、「季節」や「年」、つまり多くの季節や多くの年のしるしとなさったのでした。もし神さまが造ろうとしておられた人間が神さまを愛し、従うことを選ぶならば、この栄光の地をずっといつまでも楽しむことができるのです。

そして人はまだ造られてはいませんでしたが、わたしはたしかに神さまの心の中には、人が生きるかぎり、終わりのない年月の間、幸せな年となるように、また太陽が決して悲しみの日のしるしとなったり、月が痛みの夜のしるしとなったりしないようにという希望があったことを感じます。

「夕となり、また朝となった。第四日である。」

バーベキューソースと野菜の豆腐チーズ焼き

★バーベキューソース

■材料

しょうゆ 100cc 味噌 大さじ3 粗糖 大さじ3-4 はちみつ 大さじ1 にんにく 大さじ1

白ごま 大さじ1

■作り方

- 1. にんにくをすりおろします。
- 2. 上の材料をミキサーに入れて、混ぜます。

★トマトのチーズ焼き

■材料

アルミ皿 (6 つのせられる大きさ)

トマト 3個

豆腐チーズ 適量

オリーブオイル 適量

塩&オレガノ 少々

■作り方

- 1. トマトを半分に切って、アルミ皿の上に切り口を上にしておきます。
- 2. 豆腐チーズをのせます。
- 3. オリーブオイルをかけます。
- 4. 好みで塩とオレガノをかけます。
- 5. アルミ皿をバーベキューの網の上において焼きます。そのとき、アルミホイルでふたをすると良いです。トマトに火が通って、チーズが溶けたらでき上がり。
- ★トマトのほか、しいたけも豆腐チーズとよく合います。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校:9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教:11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究:14:00-15:00

【公開放送】http://www.4angels.jp



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理

お申込先:〒350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱13号「福音の宝」係 是非お申し込み下さい。



【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよ みもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全 に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムで す。



聖書物語

パート1 第10話 太陽の最初の光線(川)

「神はまた言われた、『天のおおぞらに光があって昼と夜とを分け、しる しのため、季節のため、日のため、年のためになり、天のおおぞらにあっ て地を照らす光となれ』。そのようになった。神は二つの大きな光を造り、 大きい光に昼をつかさどらせ、小さい光に夜をつかさどらせ、また星を造 られた。神はこれらを天のおおぞらに置いて地を照らさせ、昼と夜とをつ かさどらせ、光とやみとを分けさせられた。神は見て、良しとされた。」

そして、それは良かったのです。非常に良かったですし、非常に必要で した。なぜなら、太陽の光と温かさがなければ、神さまが造られた植物 や木々は長く持たなかったはずですから。このお方はそれをご存じでした ので、ご自分の知恵のうちに、すべてのものをかえりみて、備えをしてくだ さいました。このお方はまたご自分が造ろうとしておられる動物たちも日 光を好み、それがなければ決して健康に強くいられないということをご存 じでした。人もまたそれを愛することでしょう。そして同じように日光が 必要なのでした。ですから、何よりも人のために、この最初の光線が地上

のでした。

このこと すべてにお いて、神さ まは今日、 明日のこと だけをお 考えになっ たのではな く、これか



(41ページに続く)